



人類に  
奉仕する  
ロータリー

# 藤沢東ロータリークラブ 週報

2016~2017 Rotary Club of Fujisawa East



- 会 長／石田能治 幹 事／林葉之 例 会／毎週火曜日 12:30～13:30
- 事務所／藤沢市南藤沢 4-2 吉田ビル 5 階 TEL 0466-41-9191 FAX 0466-41-9192
- 例会場／湘南クリスタルホテル藤沢市南藤沢 14-1 TEL0466-28-2111 FAX0466-28-2126

ROTARY SERVING HUMANITY



## 第 1944 回例会 2016 年 9 月 27 日 (火) (天候) 晴れ No.11

点鐘  
開会

クリスタルホテル 3F「フォンテーヌ」  
Fontaine

ロータリーソング：「手に手つないで」  
ゲスト・スピーカー・ビジター紹介  
ゲスト・スピーカー

小林正夫様 (聖ステパノ学園理事長)

ビジター なし  
バナー交換 なし

会食・懇談

-会長報告-

- ・先日の藤沢市民まつりでポリオ撲滅の街頭キャンペーンを行って頂きました。朝早くから 11 名の方に手伝って頂きました。ありがとうございました。昨日田島 AG からの連絡で 12 万 1 千円の寄付を頂きました、とのことでした。本当にご苦労様でした。

-表彰&特別挨拶- なし

-幹事報告-

- ・本日例会後に事務局において奉仕委員会を開催致します。奉仕活動の進め方について話し合ってくださいと思っています。社会奉仕委員会及び国際奉仕委員会、職業奉仕委員会のメンバーの方はよろしくお願い致します。
- ・神奈川県ロータリアンの親睦テニス会の案内がきております。11/8 (火) 湘南ローンテニスクラブにて行います。
- ・第 3 グループのゴルフコンペが 11/21 (月) 湘南シーサイドカントリー倶楽部にて予定。また回覧を廻しますのでご覧下さい。
- ・塩釜東 50 周年に行かれた方に写真が届いております。後程、梶浦社会奉仕委員長から説明をして頂きます。
- ・確定申告用の寄付金の領収書が届いております。

- ・記念誌や会報等の回覧物がきております。回覧しますので、ご覧ください。
- ・今、米山奨学金の寄付のお願いを会員の皆様にメールや FAX 等を出しております。現金若しくは振込か或いは会費と同時に引き落とすのかを来週までにご連絡頂ければ、請求書の発行を致しますので、ご協力の程、よろしくお願い致します。
- ・10/15 (火) の親睦旅行について、水川親睦委員長が本日遅れての出席のため、私の方から説明させていただきます。今のところ 15 名の参加者のご報告を頂いておりますが、まだ定員に余裕がございますので、皆様奮ってご参加願います、との事です。今回は親睦委員会と米山奨学委員会との共同イベントになっております。米山記念館の見学の他スカイウォーク入場料 1,000 円を含めておひとり 7,000 円の御負担でのコースになっております。どうぞよろしくお願い致します。

-委員会報告-

- ・梶浦社会奉仕委員長…塩釜東 RC50 周年記念式典に参加された方に緑色の封筒で写真を配布しました。現吉木会長の齋藤スタジオ様からのプレゼントということです。私の方からお礼を伝えておきました。塩釜東 RC も式典を終えてほっとしているところで、今後とも友好関係を続けていきたいと考えております。よろしくお願い致します
- ・出席報告 出席委員会
- ・スマイル報告 スマイル委員会

-会員&配偶者誕生日-

会員誕生日 配偶者誕生日 なし

-卓話-

講話「聖ステパノ学園について」  
聖ステパノ学園理事長 小林正夫 様

点鐘  
閉会

### 出席報告

例会月日	総員 (名)	出席 (名)	欠席 (名)	出席率 (%)	メークアップ (名)	修正出席率
9月13日	34 (31)	20	8	64.50	2	73.33
9月27日	34 (32)	24	8	75.00		

-スマイル-

村木スマイル委員長



【石田能治 会長】

小川先様、本日の卓話よろしくお願い致します。

【林葉之 幹事】

小川理事長様 本日の卓話楽しみにしております。宜しくお願い致します。

【入澤初子 会員】

小川先生 本日は遠路の処 卓話におでかけ頂き、ありがとうございました。よろしくおねがい致します。

【河合克彦 会員】

片岡さん 快癒おめでとうございます。9月は欠席が続き、お祝いを申し上げるのが、遅れました。

【片岡啓次 会員】

小川様 本日の卓話を楽しみにしています。よろしくお願いたします。

【吉田新一 会員】

小川様 本日の卓話よろしくお願い致します。

【村木薫 会員】

小川様 本日の卓話よろしくお願い致します。

-委員会報告-

社会奉仕委員会 梶浦社会奉仕委員長



「6月の塩釜東RC50周年記念式典の写真をプレゼントで頂きました。私の方からお礼を言わせて頂きました。今後とも友好関係を続けていきたいのでよろしくお願い致します。」

-委員会報告-

出席報告

狩野副委員長



田中繁クラブ管理運営委員長



「本日のゲストスピーカーは聖ステパノ学園理事長の小川正夫先生です。」

入澤プログラム委員長



「小川先生は、大磯にあります「エリザベス・サンダース・ホーム」（児童養護施設）に幼稚園、小学校から中学校までの一貫した教育のご指導をなさっています。それからこの場をお借りしまして一言。聖ステパノ学園の小学校の建替えがありまして、その節、皆さんにお世話になりました。ありがとうございました。」



<http://www.stephen-oiso.ed.jp/>

-卓話-

## 「聖ステパノ学園とエリザベス・サンダース・ホームについて」

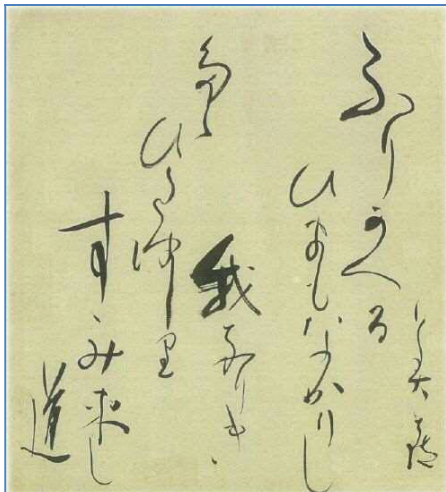
聖ステパノ学園理事長 小川正夫 様



みなさん、こんにちは。お招き頂きましてありがとうございます。

まず、最初に今から70年くらい前に物資が不足しているときに、エリザベス・サンダース・ホームにいる子供たちの教育のために聖ステパノ学園が造られました。当時物資も不足していて平屋建ての古い建物でした。ようやく新しい校舎を建設することができました。その時に入澤さんから多くの方に声をかけて頂いて、50件の皆様から107万円余の大きなご寄付を頂きまして、校舎の建築に充てさせて頂きました。この場をお借りして心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

いくつか資料がございますが、この中で黄色い色紙があります。これは、澤田美喜先生が晩年に書いたものでございます。



美喜

ふりかえる  
ひまもなかりし  
我なりき  
ただ ひたすらに  
すゝみ来し 道

私もこういう生き方をしてみたいな、と思っ

ておりました皆さんにご紹介申し上げました。それから、偏見を受けた子供達という資料…戦後ホームで生活していた子供達が今大きくなってどういう生活をしているか、とういうのは大変皆様が関心がございましたので一昨年朝日新聞の特集したものをお持ちしました。

次に「澤田美喜もうひとつの顔」という資料澤田美喜が戦後日本の復興のために陰でいろいろと力を振るった、ということアメリカの公文書館などからの資料を集めてまとめた本ができています。本のタイトルは「GHQと戦う女」であります。

それから私がインタビューを受けた資料

これは、「本当に大事なものは子供の時からお互いに、お互いを大事にする、命を大切にすることが平和に繋がる第1歩ではないか」ということをまとめたものです。

それから聖ステパノ学園とエリザベス・サンダース・ホームのパンフレットがあります。その他「聖ステパノ学園とエリザベス・サンダース・ホーム」の小冊子があります。簡単にそのふたつの関係をまとめたものです。

エリザベス・サンダース・ホームを創設した澤田美喜さんは世界的に有名であります。多くの方がご存知ですが、ちょっと違った角度から今日はお話をしてみたいと思います。

社会福祉法人児童養護施設のエリザベス・サンダース・ホームと学校法人聖ステパノ学園の働きの原点は英国にあります。

英国の社会福祉の原点は世界の社会福祉の原点にもなりましたが、「ドクター・バーナードス・ホーム」（150年程前）があります。そこで澤田美喜が受けた強い印象が土台になっております。

トーマス・ジョン・バーナードは1845年アイルランドの裕福な家庭に生まれましてキリスト教の信仰の強い母親に育てられました。父親はアイルランドで鉄道会社を設立して大きく貢献しておりました。しかしまもなくヨーロッパ各地で食糧不足に陥りました。ジャガイモが病気になることが原因で餓死者が続出しました。トーマスの父親の会社も影響を受けて経営破たんし、倒産してしまいます。幼少の頃のトーマスは虚弱体質でジフテリアにかかり、奇跡的に回復したとの記録があります。非常に驚くべくは棺に入れて葬儀を行おうとしたら、微かに身体が動いてそこから蘇生したと記録に残っています。



トーマス・ジョン・バーナード

成長したトーマスは、将来医療伝道師つまり医師となって中国に渡り、医療の傍らキリスト教の布教をしたいと決心していました。まず、医学を修めたいとロンドンに行きましたが、その当時のロンドンには特にイーストエンド地区（丁度この前ロンドンオリンピックが行われた地区です）は産業革命のあと、手工業から機械工業へと変わり失業者や不労者が続出しました。伝染病コレラの大流行が重なるなど、多くの労働者が命を落とし、多くの貧困層が生まれ荒れた生活に喘いでいました。そこでトーマスはキリスト教の精神を元にした社会福祉の活動「救世軍」（サルベイション・アーミー）の創始者であり、活動の主導者であったウィリアム・ブースに出会います。二人は民衆の悲惨な状況に心を痛めて、このような会話を交えたとの記録があります。ブースはトーマスに「失業した結果貧困生活に余儀なくされ、病に冒されるなど荒んだ生活に喘いでいる大人たちの救済に力を注ぎたい。トーマス、君は親を失い貧困の中で浮浪子となっている子供たちの救済に力を注いでみないか。」という二人の会話の記録が残っています。

当時福祉の働きは必要だと、誰もが思っていました。当時のビクトリア時代は「貧困や障害は怠惰の結果もたらされた恥すべきことだ」という風潮があったので、積極的にそのような人たちに関わることに否定的な風潮がありました。政府も民間も積極的な対策をとろうとしていなかったようです。丁度日本では幕末から明治にかかる頃でした。

澤田美喜が感動を受けた英国の「ドクター・バーナードス・ホーム」の働きは 1870 年に始まりました。小規模ながら孤児や浮浪者を救済、教育する児童養護施設の働きがここに始まります。施設を始めた頃、入所を希望するは多く、冬の夜更け助けを求めに来た少年がいました。入所を断ったのですが、翌朝少年は玄関脇に佇んだまま死亡しており、トーマスは深く心を痛め、以後子供達がどんな状況や環境にあっても分け隔てなく受け入れる決心をしています。

同じ頃、日本では新島襄が同志社大学を設立して、二宮に「蘇峰堂」というのがあります。徳富蘇峰が設立出資につくり、募金を呼びかけ大隈重信、井上馨、岩崎弥乃助（澤田美喜の叔父さん）などにも協力を求めています。

さて澤田美喜、旧姓岩崎美喜は 1901 年に東京で生まれました。年表を見れば何歳かすぐ分かります。1922 年、21 歳の時に外交官の澤田廉三を結婚しています。新婚当初アルゼンチン第 2 公使として赴任、外交官夫人として国際舞台で華やかな社交界の交わりが始まります。そういう生活の中で 1931 年外交官夫人として英国に滞在中、ドクター・バーナードス・ホームという存在があることを知り、訪問します。このときにはトーマス・ジョン・バーナードは既に亡くなっておりませんが、その奉仕活動に参加するなどその影響は極めて強かったといえます。



澤田美喜さん

トーマスは将来を失いかけている若者たちに「自分で自分の将来を取り戻す努力」を支援していく、そういう働きをしておりましたが、澤田はその姿勢に強く心を打たれ、いつの日か日本にもこのような働きが必要だという思いを残しています。その精神は我々が働くエリザベス・サンダース・ホームと聖ステパノ学園の働きに繋がっています。

英国駐在を終え、1932 年にフランスに駐在、マリー・ローランサンに遭い、門下生として絵を学び、のちにフランス語の翻訳なども手掛けています。パリで生活していたその頃、華やかな社交界で当時「琥珀色の女王」と言われていた世界的な女性歌手ジョセフィン・ベーカーに出会い、心を惹かれ交友関係が始まります。そして大きなショックを受けます。そこで目にしたものは「異質排除」と根強い人種差別、ホテルやレストラン、乗り物の同席拒否など激しい黒人差別でした。世界的な歌手であるにも拘らず甲斐甲斐しく思いながらも忍耐強くしてきたジョセフィン・ベーカーですが、周囲のあまりにも不条理な態度に思わず口にしたのは、

「あなたたちのその白い皮膚の下には黒い心がある。そして私の黒い皮膚の下には真っ白な心がある。」という言葉を残しています。

さて第二次世界大戦後の日本において進駐軍の占領下の日本においては望まれずに生まれたくる混血児の子どもたちが多くいて居場所を失っていました。澤田美喜が遺棄された黒人の幼子の亡骸を見つけた際に、警乗警察官に、美喜がこの嬰兒の母親だろうと嫌疑をかけられた逸話がありますが、（養護施設設立の観点で顧れば）事実は1931年、ロンドンの秋の夕暮、ドクター・バーナードス・ホームの庭を歩いているとき、紅葉に映えわたる林の遥かなたに沈む夕陽を見つめながら「将来こういう働きをしよう」と心に決めていた」という記録もございます。

澤田美喜に強烈な印象を与えることになったジョセフィン・ベーカーはスラム街で子供達へのおしめない慰問、大学での講義「ブラック・イズビューティフル」の言葉、国際的に養子縁組を多く行い、エリザベス・サンダース・ホームからも2組の子どもが行っています。児童養護施設「虹の家」というものを作って、本当に人道的な活躍をしているのを目の当たりにしました。

トーマス・ジョン・バーナードの児童福祉の精神と働き、ジョセフィン・ベーカーの人間性との出会いが、エリザベス・サンダース・ホーム及び聖ステパノ学園の設立の原動力になっていたと考えられます。

エリザベス・サンダース・ホームの働きを始めるに当たって、澤田美喜は夫の澤田廉三の前でこのようなことを言っています。「私は既に妻としての役目を果たしました。そして4人の子供達を育て、それぞれ独立させました。彼らは家族を養うこともできます。ですから、このエリザベス・サンダース・ホームの混血の孤児のため、乳児院の仕事に専心できるよう、家庭から解放して下さい。」と申し出ています。廉三は、口数の少ない人でしたが、「それはよかろう」ということで、この働きが始まりました。澤田美喜はホームで生活する子供たちには、アメリカ流の自由な躰ではなく、かなり厳しく接し、独立心を育もうとスパルタ教育で子供たちと向かい合ったことも少なくなかったようです。反面、わが子以上に面倒見が良かったようです。卒業生の思い出の言葉として「昼は鬼ババア、夜はマリア」というようなことばが当時の思い出話に残っています。

戦後この仕事の周辺には、誹謗中傷・迫害があり、昼間は胸を張っているが、夜はその重圧に悩んでいたようで、ひとり祈り続けることが

多かったようです。その跡がリトルリトル門という形で残っています。彼女が隠れキリシタンのいろいろな遺物を全国から集めるのも、ホームを創る以前からあったのですが、そういう思いもどこかにあったかもしてません。仕事を始めると家庭を振り返るも少なくなり、実の子供たちが集まると、「Ohpan become children、Children become ohpan」（孤児が実の子になり、実の子が孤児になる）と言いついていたと言われていました。

美喜の娘さんが澤田美喜さんに「ママ、ホームの子と私たちとどっちがかわいいのよ」と言い寄った時に、いきなりカー杯横顔をはたかれたと、記録に残っています。家族揃っての食事はほとんどなかったようです。

さて、エリザベス・サンダース・ホームの今ですが、様々な環境、様々な状況にある中で親に養育能力がなかったりする場合が殆どです。子どもに暴力を振るったり、薬物依存や不自然な家族関係、親の生活が乱れた貧困等、様々な原因があり、この数年親からの虐待から子供を守るケースが少なくありません。

落ち着いた家庭生活を経験していなかったり、学校に行かせていなかったり、両親が離婚さらに再婚し、新しい家庭を持ったりして、自分の居場所がなくなって安心できなかったり、様々な理由で社会性や学習でも適応性に欠けていたりする、そういう子どもたちにとって、聖ステパノ学園の教育の役割は極めて大きいと言えます。

聖ステパノ学園の教育も、この20年の間に大きく変わりました。20年程前までは特別な状況や特別な環境におかれた子どもたちが必要としている特別な教育＝養護学校的な「Special Education」（特別な教育）を目指していました。

15年程前からは、学校教育に共感した一般家庭からも入学を希望する児童が増え始め、それぞれの子どもを多様なニーズに応えられる多様な教育力を目指していくようになりました。「Alternative Education」（多様な教育）をしていこうと目指しています。

10年程前からは、聖ステパノ学園の教育はどのような状況にあっても分け隔てなく受け入れ、入学を希望する人たちと受け入れ、共に教育をしていく「Inclusive Education」（すべての子どもを同じように受け入れて、等しく教育をしていく方法）を目指して参りました。同時に地域社会に開かれた学校を目指し、新しい講堂「海の見えるホール」の建築、新しい

澤田美喜

旧三菱財閥の初代当主岩崎弥太郎の長男で 3 代目当主の岩崎久弥と妻寧子の長女。曾祖母である岩崎弥次郎の妻美和の「美」、そして祖母である岩崎弥太郎の妻喜勢の「喜」をもらって美喜とした、生粋の岩崎家の才媛であった。

エリザベス・サンダース・ホームの名前

三井財閥の一人三井高保の子高保が三井物産ロンドン支店勤務時代に生まれた息子高国の乳母・養育係として現地でエリザベス・サンダースというイギリス人の女性を住み込みで雇った。高保帰国の際に息子高国の求めで家族とともに日本に同行し、76歳でなくなるまで33年間一度もイギリスに帰ることなく、病弱な母に代わり、高国の保護者兼相談相手として日本で過ごした。エリザベスは三井家から支給される手当を貯金していたため、その遺産の使い道について、日本の少年の養育係として異国日本で生涯を終えたエリザベスの遺志に最もふさわしい使い方として、澤田美喜の養護施設の働きに寄付することになった。

澤田美喜自身多額の私財を投じて仕事を始めたが、施設の名を澤田ホームとせず、「エリザベス・サンダース・ホーム」としたのは、このような経緯があったからであり、澤田美喜の洗礼名も同じエリザベスで、まさに「道を伝えて己を伝えず」の精神であった。



エリザベス・サンダース

聖ステパノ学園の名前

澤田美喜が本当に心を砕き熱心に取り組んだのは子どもの教育であった。「失われかけた子ども達の将来を取り戻す力を育み、彼らが社会に出てからも顔をあげ胸をはって生きていけるように」と心の教育に大きな力を注ぎ、大戦中に戦死した三男の洗礼名を祈念し、聖ステパノの名を付けた。



「大磯のマグネット ポイント（大勢の人々が様々な目的を持って集まってくる場所…黒岩知事）として数々のコンサートや文化講演会に利用され、多くの人達が訪れるようになりました。

5年程前からは「ありのままのあなたで良い」教育から「ありのままのあなたを活かせる学校」を目指すようになりました。自分自身を勇気を持って表現できるように、中学校には新しいガラス張りの森の教室を創りました。この頃から、一般家庭から通学してくる子どもたちが多くなり、現在全体の7割が通学生で、3割が児童養護施設の子もたちです。

皆さんの厚い支援で、小学校の校舎が素敵な校舎に生まれ変わりました。皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。是非、大磯にお越しの際はお寄り下さい。教育の目指すところも分け隔てなくどのような状況にあり、どのような環境にあっても受け入れていくインクルーシブな教育から心の強さ、心の回復力を引き出す教育「Recurrence」を目指していこうと考えております。

つまり、弱い立場にいる子どもたちへの支援「Special Education」から広く様々な子どもたちのニーズに応えられる「Alternative Education」、そしてどのような状況にある子どもたちを受け入れる「Inclusive Education」から、さらに心の弱い子どもの心の回復力を高める「Recurrence Education」をこれから目指していこうということです。

時間となりましたのでこのあたりで御挨拶を申し上げます。本当にありがとうございました。



海が見えるホール

聖ステパノ学園

三つの願い

信仰 健康で素直な気持ちで神様に感謝する心。

希望 どんな環境にも挫けず希望をもって前進する勇氣。

愛 謙遜な気持ちで、様々な環境にある人たちに対して思いやることのできる優しい心。